

容赦無しツツ!!

人ではない?
ならば都合よし!

ある日拾った
金髪ロリ…自称『吸血鬼』
メスガキの分際で
不遜な態度…

わからせた先に待つ未来は…

性欲の限りを

叩きつけるツツ!!

- ・基本CG7枚
- ・一部服差分有
- ・セリフ&撮音差分有
- ・総CG枚数
100枚以上!!

ワカラセガタリ

調教&調教

金髪ロリ娘は



「おーっ！気合入れて汚ちんちんしゃぶりてなあー！」

「…ん…んむ…！」

こいつは近頃ワシ(53)がメス奴隷にした畜生だ。
人間じゃ無いのかつて？信じられんかもしれんが
このメスがキなんと吸血鬼なのだ。



「助けてやったからなあ。この程度は朝の挨拶みたく普通にやってくれんぞ。」

「……」

瀕死の吸血鬼のねーちゃんを助けたら
ねーちゃんがメスガキ化して従属した。。。
何を言ってるのかわからないと思うが
ワシ(53)が一番解ってない。



「うーん…もつと献身的に奉仕しろよお〜？
物足んならんだけ。」

「(いざいざ…調子にノリおいて…())」

「ちゅ…ちゅ…」

「モモ」

生き物を助ける…
良いことをすると気持ちがあええ！
ついでにキンポも気持ちがあええ！
「石に鳥じゃー」



「…(体を御されてさえ無ければ…
このような汚らわしいインデンのオスなどっ…!)」

「じれったいなあ…。」

千回…

気持ちよくヌイてもらいたいところだが
年齢数百年のプライドか？

ご奉仕へのためらいが見られる。

金髪ロリメス奴隷の義務をわからせねば…やれやれ

「ひどい臭いじゃ…吐き気がする…こんな汚物
いつまで口にさせる気じゃ…下等なオスめ…!」

「やっぱ立場わかってないな…少し教育だな。」

「ロ…」

モニュ
モニュ

わからなければ体にわからせる。
メスガキであれば尚更だ。
世の常である。



「アッアッアッ」

「アッ...アッ...アッ...」

「アッ...」

「おぶっ?!」

「お前にはちんぽ気持ちよくする義務があるんだぞ？
もつと身をいれてやらんかい？」
長生きしてんならテウの「つ」二つあるだろうが。」

「お…ぶ…(〜)〜」



「もっとしごげけー！しゃぶれ！吸え！メスの本懐やぞー！
あ〜じれったいが地味にくる…う…おおう！」

ビュッ
ビュッ
ビュッ

ゴッ
ポッ
…

「じゅぽっ…ずぽぽっ(食いちぎってくれようかー！
ヒトの分際で…許さぬぞ…！)」



「ぎゅーっ！うがぎゅーっ！（急いで）の量…苦…この汚液のせいでワジは…っ）」

ゴブゴブッ

ポタッ

「あー！てめえコラ！俺の子種汁を！
お前のエサでもあるんだぞ！
粗末にしやがって！飲め！」





んんん

んんん

「…お粗末さまじゃ…(酷い臭い…濃…粘り…これ以上飲めめ…)」

しゅわ…

「主様に対する態度じゃないな。

優しくしてたらつけあがりやがる。

もうお前にオナホ以上の価値はないと思えよ。」



「…」
「なんだあその目。良くないな。駄だ。立て。」

「（思い上がりも甚だしいわ。）

ワシにいつまでしようて…ただでは済ませぬぞ…

自分の汚液で回復したワシにみじめに殺されるのじゃ主は。」



「うっ…ぐっ…離せ！この劣等種族が！」
（なぜじゃー！未だに力が入らぬ…！体がまともに動かせぬ！）

「まだ主従がわからんか。所詮メス畜生だな。

俺のサーメンで生き永らえているメス奴隷が調子にのるな。

それにしても普通のメスガキと比べても力ないぞ？

本当に何とかの王様か？ぷに○なの王か？（笑）」



「いッ…いッ…馬鹿にするでない！本来の力が戻ったら貴様など即殺処分じゃ！
いッ…痛！…おなごのまともな扱いも知らん豚が！
緩めろー！はよう離せー！」

ギリッ

ギリッ

「おうおう…いよいよ俺の童貞まで馬鹿にしちやう？」

許さねえ…それにお前はおなごじゃなくてオナホだろうが。

分をわきまえない金髪ロリメス豚にはオス豚のサーメンくれてやる。

はらめよ。」



「んなう?!」「おっし気張れよう?メス奴隷の生業だからな。股は濡らしてるよなあ?」
「まて!まて!主は変態か!」「あ?」「交尾みたいじゃろ!やめよ!」
「そもそも何故陰茎を立てれる!○歳児程の身体じゃぞ!」

まともなカウチ
「せめて大人の身体になってからじゃろ!」

「いかれとるのか変態め!」

グニツグニツ!!!

「馬鹿だな。男は『妊娠可能と思われるメスガキ』に

ちんぽ突うずるつこんで、はらませていいんだぞ。」「は?」

「よしそれじゃ...」「嘘じゃろ?!これ...交尾?...まて主!汚液を

吞まされる苦渋ならこの際よい!頼む!交尾は「うるせえオナホだな...」



「びびり〜」

「あっ……！あっ……！痛……い……だ……あ……めい……めい……めて……くれ……」

「おーまさか……初物か！マジかあ……数百年間に渡って俺の為に処女守ってたんだな。

ロリ奴隷の自覚あるじゃないか。

えらいぞお♡」

「……はっ……はあっ……」

そ……そんな……わけ……あっ……！

「ただ……お口の奉仕よりマジだがよ、おまんまんキツ過ぎ。

ちんぽまるごと気持ちよくなできねーよ。ぷ○あなに及ばねえぞ。」

「……その……粗末なモノ……あっ……はよ……抜かめか……！」「OK早くヌグぜ。」

ズブ……

グキョ……



「素直に言えば楽にしてやるのになあ(ミジミ)…ギリリッ!」「痛!わかった! わかった!…言う…」「ワシの…おまんこから…おちんぽ… 抜くが…よい…!」「キリッ」

「又ウがよい?」(グリーミッ)」

「うあ…っ!わ…わかった…わかり…ました!」

「ワ…ワシの!おまんこから!おちんぽ!抜いてくださいわ!」「」

「ロトと違っ」「う…べっ…っ…っ…っ…っ…っ…っ…」

「ワシの…おまんこで…おちんぽ…ぬい…て…く…だ…さ…い…!」「」

「ズム」



「おーしギリギリ合格だな。ロリ奴隷に褒美だ。はらむとこい。」
「んなう?! あっ♡?! なぜっ! なぜっ! …じゃー! 言うた! 言うたぞ!」
「たらめか?! おちんぽおまんこでめいて!! おちんぽめいて!!」
「言うたぞ! …あっ♡おっ♡?!」

「お…おちんぽ…♡
めいて…くたされ…い…痛いんじゃ…
痛くて…おまんこも…なんか…変なんじゃ!
お願いじゃ! おちんぽ…めいてくたさい! おちんぽめいてくたさい!
いっ…! おちんぽめいて! おちんぽめいてえ! あっ…!」

ゴッ
ゴッ
ゴッ

パン

パチン

パチン

パチン

パン

パチン



「どうだ。無駄なプライド捨ててメス畜生になれて…気が楽になったろう。」
「は……………ひゃ……………あ……………い……………」
「約束通りちゃんぽヌイてくれた主様に言うことは？」

「……………ありがとうございます……………」

「えらいーえらいぞー！」

「よしー処女喪失記念にもう一つご褒美だー！」

「……………?」

「ハァ……………ハァ……………」

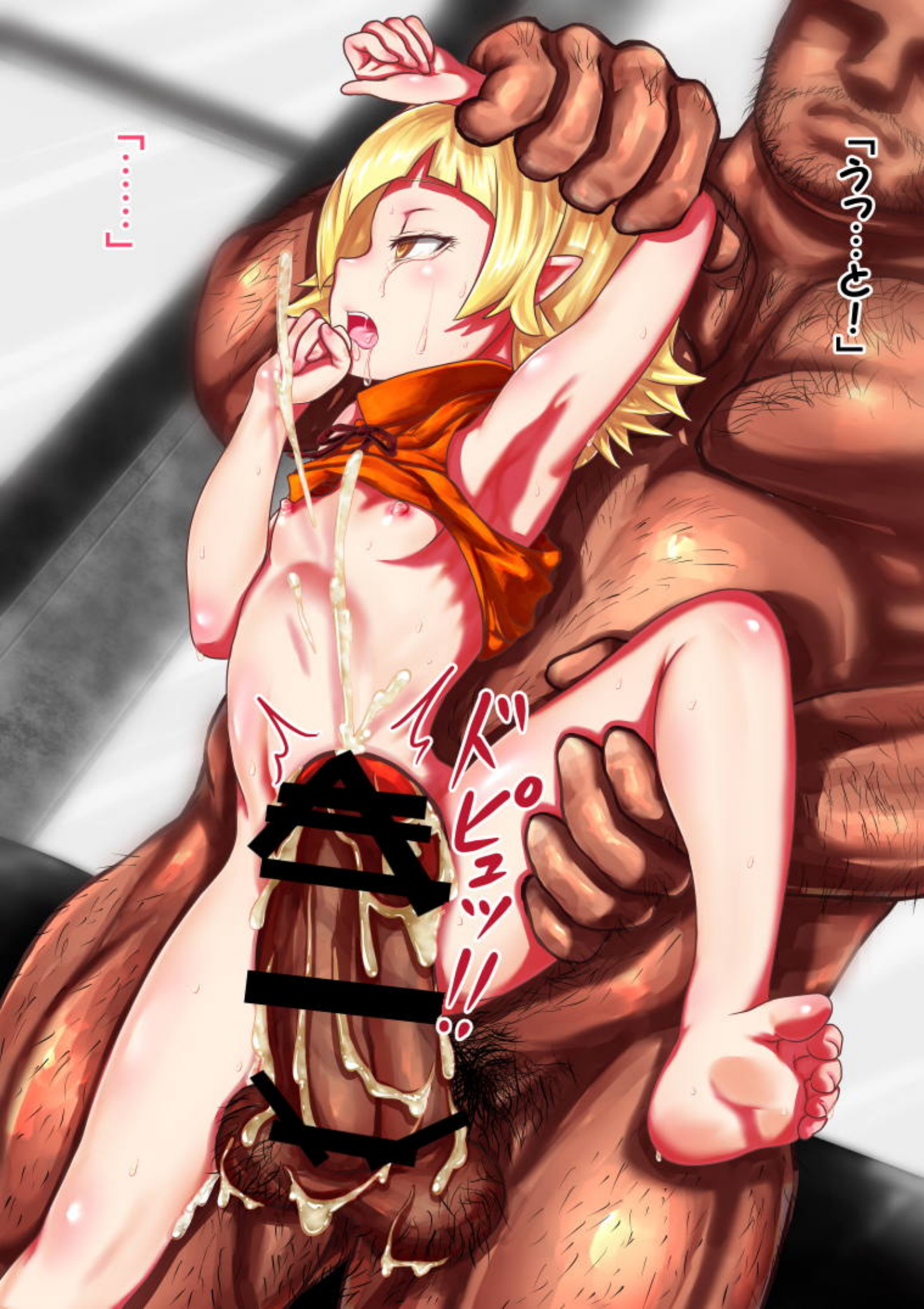
ズルツル

オ

シ

ツ





「.....」

「.....」

XXXXXXXXXX
!!
!!
!!

「まんにこにへりきらんかった残り汁でぶっかけデコレーションー！
金髪ロリ奴隷には映えるな！寸志だ！感謝せえー！」
「……………な……………な……………な……………」

ドロ……………

ゴッポツ

ゴッポ……………

ッ……………

「ハハッ現実見ろよう？あとでしっかりとわからせてやる。
お前がただのメス奴隷だってな。あとでしっかりとぶっかけとけよ。」
「……………」



強めにわからせ始めてから数日が過ぎた。
あれから毎日このオナホでオナニーを楽しんでいる。
次第に従順になっていると思う。流石に立場を理解したか。

「ごうぞ…ごうぞかこの
金髪回リまんごでご奉仕
させてくださいませ…」



「なんかやる気を
感じないなあ〜(笑)」

「……わ…わしの…
主様の『せいし』が着床済の卵にまたぶっかけてくだされ…」

「おっ？自分で妊娠したのわかつちゃう？」

「…めし様のおとなちゃんぽで
わしのごどもまんご
幾度種付けしたと…
…主人ならもう少し
優しいまぐわいを…」



「ちよつとまでい！
種付けなんかしてねえ。
ティッシュにサーメン
くるんで捨てるのを
種付けって言わんだろ？
一丁前にセックスしたと
思わんでくれ。」

「……………もうよい…ならまた好き勝手使い倒せばよかる…」



ズム

のしっ

「おう」

ム
ン
ツ

「おんっ?」

ドチュツ

「おおおー♡」

「ぐっ…ふっめっ…おも…くっく…びっ…」

「あゝ毎度新鮮で飽きがこないいいオナホまんこだ。偉いぞ。」



「あ…あるじさま…
…ちゃんぽんよ…い…
も…すっし…
…ぐっ…ご慈悲を」

「ようしーならっつもの『きもちいら』のドゥッぽっつやるからな。」

「じゃやめるか」えあ♡?!…あ…あ…う…あ…」
「ちん負けしちまう吸血鬼なんかただの生き恥だよな…」
すぐめるわ。」

ビッ
タッ
~~~~♡」



「や…待って……くだされ…」

「喋んな畜生。」

「っ♡…待って…」

…わしは誓う!

主様とおちんぼ様に

生涯服従すると誓う!

「わしはご主人様のちんぼキモチよくするために生まれて

きたと骨の髄までわかった♡やめないで♡気の済むまで

しゃせーして♡お願いじゃ♡ご主人様♡」

ぴっ♡

ぴっ♡



「そりまで言うならっ！とーあっ！」

「うん…おまんこっ！」

ド  
ビ  
ン

ク  
リ  
ン  
ク  
リ  
ン

(ooooo)

「ふうっ…スッキリしたわ。」「ちと遅いがやっとなメス奴隷が  
どうあるべきかわかったみたいだな。ま、励めよ。」

「あ…ひゃら…」

ビクビク

ク

〃



（…わし…おわったの…

怪異の王たる尊厳も…

誇りも…汚ちんぽに…

折られた……よいか…もう…）

ビク

〃

「いつも通り後片付けはしとけな？」

「は…ひやうー！」

（全てなめとらねば♡）

「うーかよ。  
俺のちんぼさ、  
お前の家畜まんこで  
汚れてんだけど…」

「あ♡おそうじします♡！（おそうじせねば♡）（♡）」



「おゝ似合うな。」

「ありがとうございます♡」

「メス奴隷でも奉仕する際の格好つてもんがあるからな。主人に尽くす正しい姿勢…褒めてやる。」

「とても…嬉しいです♡」



「よしよし♡わて、ぞつすんだっ?」

「はい♡わしのおまんこで汚してしまった  
ご主人様のおちんちん…おくちでキレイに  
させてください♡」

「よく言えました」あもっ♡」

「おおっ?!」

「じゅぷぷ……じゅる……♡あむ♡……ちゅむ♡」



「待ってもせんとは……もうちつときつい躰しないとな。」

「はも♡……じゅぼぼ♡……♡」

「フツサイクな面してまでガツついて……堕ち過ぎ(笑)  
吸血鬼どうこういっても所詮はメスだな。」

「喉奥までつつこんで綺麗にすんだよ。  
歯を少しでもたてやがったらメ殺すからな。」

「おべっ♡…んぶっ♡…おぼっ…ぽ♡…♡」



「だんだん綺麗になってきたなあ〜いいこには  
お駄賃やるぞお〜ちんこ食道までくわえとけ。」  
「お…………んぶっ♡♡」

「おらー！褒美…だぞ！飲め！呑め！」

「…♡…」



ビクッ

ビクッ

トッ



「ふう〜きもちいい！  
メスの献身的な奉仕…悪くなかったぞ。」



「ふんっ…♡」

「一滴たりともこぼすなよ？  
ご主人の有難いサーメンだからな。」



(コウコウ)  
「ご主人様♡」

「よっしゃー！ちんぽキレイになったぞ。  
あとは飲み干すだけだな。  
ご馳走は残さないのがマナーだからな！」



「ん…♡むぐ…♡」  
(なんとという…青臭さ…苦味…拭いきれぬ粘り…  
口の中でおたまじゃくしが大暴れじゃ♡  
苦しいが…飲み干さねば♡)



ぐんぐん♡ー!

「んっ…んっ…んっ♡」

「お掃除させていたただき…  
ありがとうございます♡  
せーえきもご馳走様でした♡」



「おう。また溜まったらご奉仕させてやる。  
クリと乳首たてて待っつけ。」  
「はいっ♡♡」

また数日後…

ワシ(53)も伊達に吸血鬼と体液交換はしてない。  
身体機能が向上していたワシ(53)に襲い掛かってきた  
若いにーちゃんを返り討ちにしたところ、  
ワシ(53)のメス音の元の体の足を手に入れた。

食わせるのGJJJJで  
くれてやったら…  
これまた掛る姿に  
なりよった！  
そんなわけで今から  
使ってやるどころだ。



「まっ…いきなり…お願いじゃ…せめて準備を…」  
（元に戻り始めておるのに…また責め苦を…  
体の前に心が持たん…完全に折れてしまう…）」

「そんなもの、あるわけないだろ？  
ぶち込んでやるぜ！」

挿るのはいいが…  
躡ける前にあった  
不必要な自我が若干だが  
戻ってしまったようにみえる。  
調教のし直した。  
面倒だぜ。

グッ  
グッ

ズキ  
ズキ

「えいじゃおらッ!!!」

「ぐん...お...ぐんぐん...!!!」





「う……あつ……い……いたらい……ごしゅ……じ……さま……ごじむ……  
ごじむを……」

「おおく何とええ心地！妊娠適齢期ど真ん中のメスの体してつと  
こうも気持ちええ穴つぼこになるとは！たまらん！  
生きててよがった！神様！いるならありがとうッ!!!」

「う……あ……」

たすけ……うく……

……たすけ……て……」



「また破瓜してたか！かまわん！何度でも俺に処女捧げろ！  
何度でも膜破ったる！おら！」

「あつっ……やめ……わしの……赤ちゃん……部屋……ひやめ……  
ごわ……れ……っっ!!!」

「ちんぽ気持ちよくなる為には仕方ないだろッ！」

「子宮最奥で射精してやる！今度はポテ腹にするまで流し込む！」



「はっ……む……の……  
いや……じゃ……っ……！」

「いやじゃ！いやじゃ！  
ごじひを！ごじひを！」

「ちんぽ汁いやじゃあつっ！」

「ちんぽ汁いやじゃあつっ！」

「ちんぽ汁いやじゃあつっ！」





ひなすらロリエロ奴隷を調教し、使い込むことまた数日……  
中出しとザーメンデコリーションだけでは正直飽きてきた。  
そんな折ふと、この『男の精を賜うだけのエロ凶器』を隅々まで  
活用せねばとワシ(53)のゴーストが囁いた。

であれば、このエロ足を犯すべき。ワシ(53)の魂が叫んでいる。  
行動あるべし。そして今に至るのだった。

「あ…足っで…わが主様の…  
ご息を…」

「そうだよ。足コキな。  
その為のあんよだろ！」

「ん…うむ…(足だけで仕事が終わるならよいが…)」

「あ、ちゃんと足裏の汚れナメとってからコイてな。常識だよ。」

「む…無論じゃ(わしは変態の遺伝子を受精しとるのか…)」



「れる…ちゅむ…(主様の性癖には困ったもんじゃの…  
全く…♡)」

「どうぞ奉仕させてもらえんだ。  
失礼のないようへ念にな。」



「…っ…ひゃい…  
い…いかな…気を抜くと完全に隷属してしまいそうになる…  
早く体を取り戻さんと…ふん…ちようごよいわ…  
今後は足だけですましてやろうや…もうおまんこは使わせめ…  
…わしのあんよで骨抜きにしてやるわ…♡)」

「あゝん。」

「ひゃえ♡」

「ちろ…」

ボロ…

（いつみても…おやましい…  
こんな剛直が容赦なく  
わしのこどもまんこに突き立られておるのが信じられぬ…♡）



「ご…ごうじやう…ごう…かのー」

「おおー思った通りの柔いあんよー！  
足「ギ」に適した正回いあんよとは思ってたがまさかここまで…  
あつふーもっと奉仕させえ！たまらん！」

「う…うむ♡」



「そ…想像以上じゃった…♡」

「剛直おちんぼにも可愛いところあるではないか  
これは…いけるやもしれぬ♡」



「意外と…弱いところあるのじゃな♡おちんぼ様にも♡」

「そりゃ性器だからな！全身性器のお前ならわかるだろ！お！」

「そうじゃったの♡」



「わがあるじ様のごんな顔が拝めるとは…♡  
少し楽しくなってきたの…♡」





「アァアァアァ…」

（よくもこんな容赦ない吐精を…  
これではわしの心身共にもたないのは  
当然じゃ…♡）

ドロォ…

「てめええ調子のりおつてえ…  
死ぬより辛いオメシ地獄でほぐり殺してやるゾ。」



「穴だせや。  
膜ごころか子宮も貫いてフッ壊してやる。」

ビクッ

ア

「…っ…っしか…っの『あ…っせ』は  
使えそうじゃ…！  
なにが…弁明を…そうじゃー！」



「ちが…る前に聞いてくれ！  
わがあるじ様のざーめんもっど欲しかったのじゃ♡」

「…♡♡♡」

「学んだんじゃ♡その…落ちてた春画での…♡  
異なる『しちゅえーしょん』や『ぶれい』は  
また格別なんじゃろ？」

「…」

「あくまで立場をわきまえない『ぶれい』だったんじゃ♡  
現にたくさんのざーめんをいただけただけではないか♡」

「♡♡♡…」

「わしは身も心も主様に服従しきつてあるよ♡」



「いただきます…ちゅ…うむ♡」

「♡♡♡♡♡」

「ちゅろ…れろ…」

（相変わらず強烈な…臭い…  
味も…う…♡）



（ここが正念場かの…）

『あしこぎ』でおちんぼ様の猛りを鎮められれば…

そうそうおまんこ壊されることはなから…

びーめん…味わってなめとらねばの♡）







「っ…ぶあつ♡！」

はあっ…はあっ…ざあめん美味しゆうございませぬ♡  
（こんなに濃いのをこの量は…ちときつい…）」

「お前にとってはご馳走だからなあ当然だよなあ。  
つかまだ全然残ってるけど…  
え…何？残すの？メとく？」



「あ…あはな…♡」



「ごめんなさい……がゆがゆする……♡」

「んんん♡♡」

「はあ…はあ…♡  
わしのあんよにういたぎあめん…  
大変美味でした…♡」

「うぶ…」

「…その…まだめるのは…  
待っていたたきませ…」



『ooo』

「また足で…奉仕もさせていただきます♡  
なんでもします♡」

…手も口も髪もワキも乳首も全て使って奉仕します♡」



「わしが全身性器…主様の性玩具であること…」

思い出して♡…まだまだお楽しみ下さい♡

…以後立場はしかと弁えます…その…どうかまだメないで…♡」

「…なるほど。反省はしてるんだな。わかった!」

「ではメスは無し！殊勝なメス奴隷には  
生きオメ」地獄してやるぞー！」「う？！」

「あつまさからやとがっ……メッ」

「う……あ……いや……」

「メスの役割はオナホまんこの提供。  
永遠におまんこしてもらいたくて  
懇願したんだろ？  
あゝまたちゃんぽ勃ってきた！」

（い……いかん……本当に壊される……！なにか……工夫せねば……  
せめて壊されん為の……おちんぼ様の為の……なにか……）

——どうして調教は苛烈さを増しつつ続いていくのであった——

あれから根気よく調教を続けた…。  
一時期は反抗の意思も千うついたメス奴隷が  
今では従順で立派な肉便器と化した。

まさしく「継続は力なり」、と言える。

続けていれば良い結果は生まれるものだ…。  
ワシ(53)が調教を通じて得た教訓だ。  
メスガキよ、ありがとう。

…具体的な良かった成果？

…そうだな…

例えば朝起きると…



「…あつ…♥起きてしまったか♥  
上の方失礼してあるよ♥」  
「おそようじゃ主様♥  
朝から凶悪なご子息を  
慰めるさごじゃぞ♥」

こうなっている。朝勃ちんぽの性処理はメス畜達の  
ルーティンと化している。珍しい事では無くなった。  
…なんで二匹になっっているかって？

ある時、再び手にしたこいつの元の体を  
食わせず、血を吸わせるに留めたら…  
なんと増殖して一匹増えたのだ。  
あの時は本当にビックリした。  
あれからは…  
二匹ともメス畜としての意識を  
失う事無く、割と順調に従順になった。







「はっ♡はっ♡んっ♡あっ♡はっ♡」  
(主様のサーメンで膨らんだ腹の最大活用法じゃ♡  
畜生にも意地はあるのじゃ♡  
きもちいい吐精を実現させてくれよう♡  
あるじさま♡好き♡好き♡)



「んっ♡んっ♡あっ♡あっ♡あっ♡」  
(倫理も常識も越えた…  
性暴力の化身♡わしらメスはたまらん♡これが雄…♡  
これが人間の男…♡好き♡好き♡だいしゅきじゃ♡)



「はあ…♡はあ…♡」  
「はっ…♡はっ…♡」

「おいおい…俺の射精に興奮して  
乳噴き出してんじゃねえよ…」

「すいませめ♡っ♡」  
「少し早めの『ぶれっくふぁーす』♡ごせの♡」  
「きん♡」  
「そうじゃな♡」

「主様の種付けでできた  
わしらの金髪めすろり妊娠奴隷ミルク…」

「朝から栄養満点じゃ♡」

「主様に♡ご奉仕できて  
栄養もいただける…♡」

「すごいのがじゃ♡一石二鳥じゃあ♡」



「あ♡」「でくんと♡」

「おんっ。」

「う…いま…わいらの胎の子がうぶにた♡」

「ち…ちんぽんぞむる♡」

「わいらもー一番♡ちんぽんぞむる♡」

「胎にながらも主様に  
ご奉仕できてうれしいのじゃ♡  
うむ♡わいらの子じゃ♡」  
「お産の前から  
主様に忍くせるとは…♡  
わが子ながら少し妬けるの♡」



